

平成30年度

所 報



鳥取市教育委員会
鳥取市教育センター

はじめに

「鳥取市の教育課題である学校不適応の解消に向け、学校や家庭を中心とした各種相談や支援を提供し、子どもたちの健やかな成長を図る」ことを目的として設置された鳥取市教育センターは、平成30年度で12年目を迎えました。

中核市元年の今年度、「鳥取市教育振興基本計画」にある「ふるさとを思い 志をもつ子を育て、夢と希望に満ちた次代を“ひらく”！」の基本理念のもと、教育センターは「教職員研修の充実」「特別支援教育の推進」「学校不適応解消（未然防止）に向けた取組」を三つの柱として、各学校や関係機関と連携を図りながら重要な役割を担ってきました。

5月には、福祉と教育が一体となって発達相談、教育（就学）相談ならびに支援等の窓口の一元化を図り、学校における特別支援教育の充実を推進することをめざして、教育センター内に「こども発達支援センター（愛称：あいぽっぽ）」が開設されました。一人一人の社会的自立に向け、教育的ニーズに対応した切れ目のない一貫した支援とワンストップの相談体制のさらなる充実が図られ、特別支援学級・通級指導教室並びに「ひらがな音読支援事業」・「早期支援事業」・適応指導教室「すなはま」の運営や支援等、特別支援教育系の取組の大きな成果につながっていると思います。

今年度からスタートした中核市教職員研修では、特別支援教育の視点を基盤とした研修体系の構築、本市の重点課題解決に向けて中堅教諭等資質向上研修を核としたコラボ研修の実施等、鳥取市独自の特色ある研修をとおして連携協働意識を高め、校内OJTの推進、人材育成、組織力の向上を図ってきました。研修内容の共有化の意識が高まり、実態の改善に向けた工夫が見られました。

また、新学習指導要領の先行実施として始まった小学校3・4年生の外国語活動、5・6年生の教科としての外国語の授業を補助するために地域人材を活用した「小学校外国語活動人材支援事業」、外国語指導助手（ALT）が中心となり実施している「きなんせ！English World・キャラバン」等、研修企画係が行うグローバル人材育成に向けた取組の中で、子どもたちが笑顔で英語を使って活動に取り組む姿も多く見られ、うれしく感じているところであります。

これらは、「すべての子どもが 幸せになるために」を合言葉に取り組んでいる事業であり、子どもにとって、安心して学校生活を送ることができる学校・学級づくりの基盤となるものです。教育センターは、学校や関係機関と連携をさらに深め、その役割を果たしていきたいと考えております。

最後になりましたが、今年度の教育センター運営に対し、格別のご協力とご支援を賜りました関係諸機関の皆様には厚く感謝申し上げますとともに、今後とも、より一層のご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。

平成31年3月

鳥取市教育センター

所 長 東田 重高

目 次

はじめに

I 鳥取市教育センターの概要

1	設置の目的	1
2	沿革	1
3	組織及び業務	1

II 平成30年度の事業概要

1	特別支援教育の推進	2
2	教育相談事業	4
3	教育相談事業 ～早期からの教育相談事業～	6
4	適応指導教室「すなはま」「レインボー」の運営	8
5	学校支援 ～T式ひらがな音読支援事業～	12
6	教職員研修	14
7	学校支援人材活用 ～小学校外国語活動支援員～	17
8	きなんせ！English World	18

I 鳥取市教育センターの概要

1 設置の目的

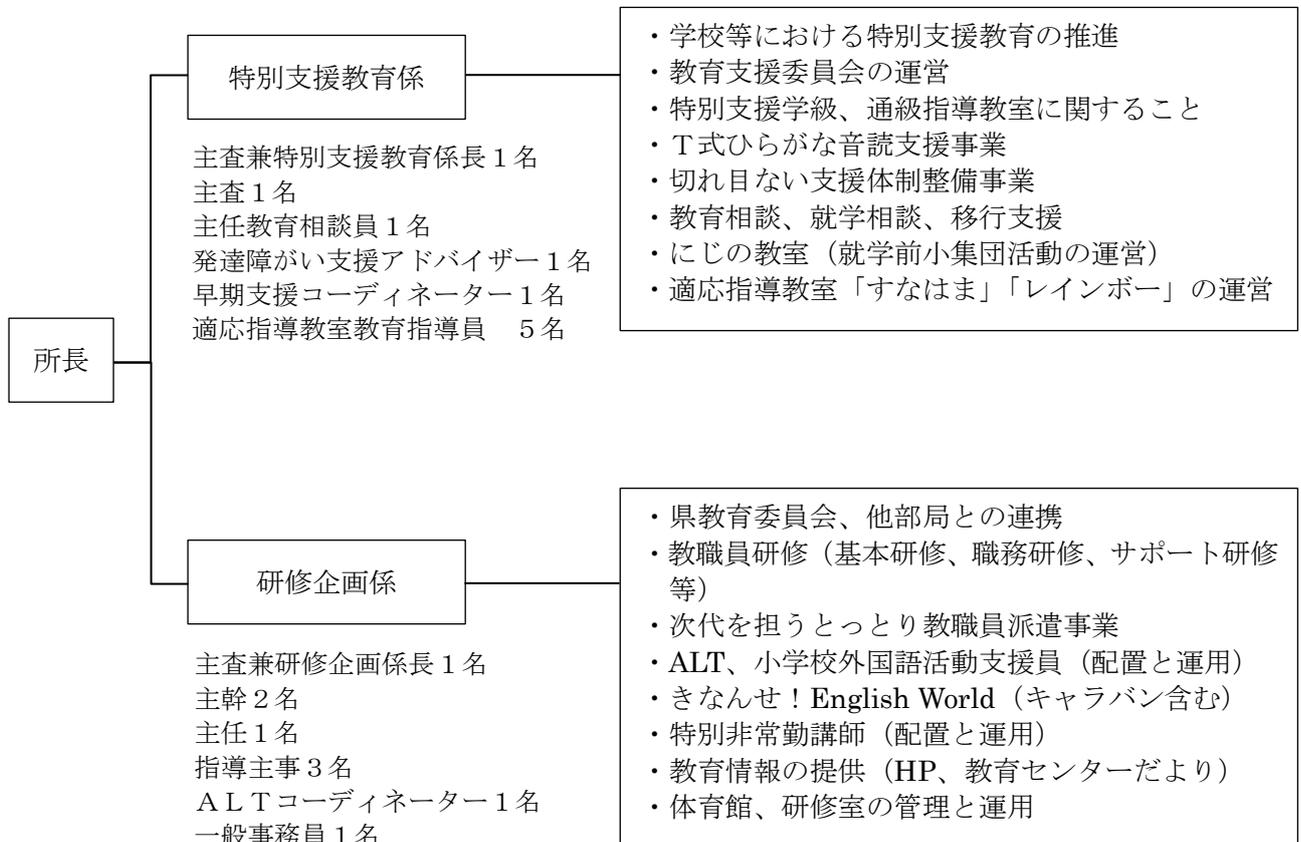
教育に関する専門的、技術的事項の調査研究、教職員の研修等を行うとともに、不登校等の児童生徒に対する支援を行い、教育水準の向上及び児童生徒の健全な育成を図る。

(「鳥取市教育センターの設置及び管理に関する条例」から)

2 沿革

平成19年 4月 1日	鳥取市教育センターの設置及び管理に関する条例施行 鳥取市寺町150番地に鳥取市教育センター設置
平成19年 4月26日	鳥取市教育センター開所式
平成20年 4月 1日	適応指導教室「けたかレインボー」気高町総合支所3階に移設
平成28年 4月 1日	特別支援教育係を新設、研修企画係との2係体制
平成28年11月11日	適応指導教室「けたかレインボー」鹿野町総合支所2階に移設 「レインボー」に名称変更
平成30年 5月 1日	鳥取市教育センター内に「こども発達支援センター」開設

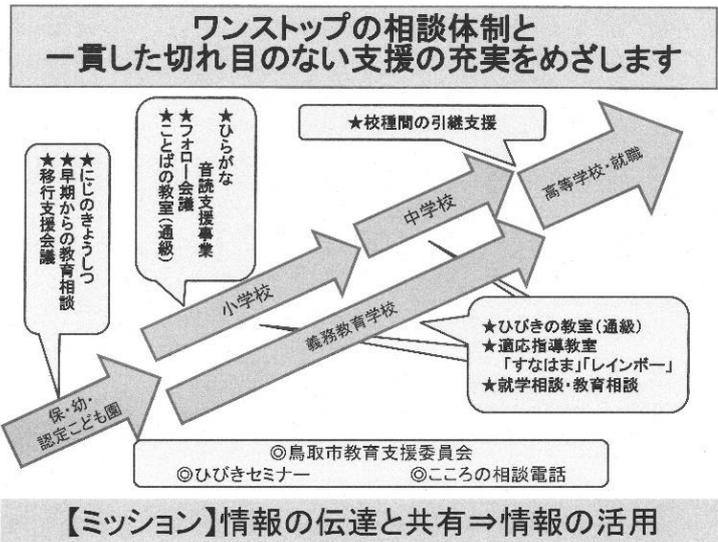
3 組織及び業務



1 特別支援教育の推進

特別支援教育係の努力点

平成30年5月1日に、「鳥取市こども発達支援センター」を設置し、発達支援と特別支援教育に関する窓口の一元化を図った。当センターの設置により、特別な支援を必要とする児童生徒等に対し、個に応じた適切な指導支援の充実を図るとともに、教育・福祉の一体化による切れ目のない支援体制の構築を図る。



(1) 取り組み内容

① 就学相談・教育相談の充実

- 副校長・教頭を対象に、県教育委員会事務局特別支援教育課の中井暁子指導主事を招き、鳥取市教育支援委員会・就学相談に関する説明会を開催し、適切な就学相談の在り方や校内支援体制整備について周知及び理解啓発を行った。(平成30年4月26日(木))
- 園長会において、「就学相談の手引き」「就学に関する教育相談のご案内」を配布するとともに、本人・保護者のための就学相談の進め方について周知を図った。
- こども発達支援センター発達支援係と連携し、年長児の保護者を対象に「小学校に就学するにあたっての就学説明会」を開催し、子どものよりよい育ちを支えるための説明や先輩保護者やスタッフによる就学相談を実施した。(平成30年7月26日(木))



② 教育支援委員会の運営

- 特別支援学校や特別支援学級の見学や体験の実施を勧めるとともに、本人・保護者の意見を尊重した就学相談となるよう理解啓発を行った。
- 校内支援体制の工夫において、特別支援学級の弾力的運用や取り出し指導を継続して行うこと等により、本人・保護者への適切な情報提供や特別支援教育に対する理解啓発につながっている。

教育委員会	審査期日	審査件数
第1回教育支援委員会	H30. 9. 13	66件
第2回教育支援委員会	H30. 11. 22	133件
教育支援委員会 (特別審査)	H31. 1. 31	60件
教育支援委員会 (特別審査)	随時審査	6件
合計		265件

③ 言語・発達障がい通級指導教室の運営

- ・宮ノ下小学校に通級指導教室が新設となった。
- ・「通級による指導の記録」について、個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用と併せて、引継ぎ資料として活用できるよう、個人情報取り扱いを明確に示した。
- ・ひびきの教室については、年3回の入級審査会を実施した。(H30.5.31、H30.9.27、H31.3.11)
- ・LD等専門員・通級指導教室担当者研修において、「算数授業におけるユニバーサルデザイン化」「新学習指導要領の改訂及び自立活動の指導」「個別の指導計画の作成・活用」に関する専門性向上に努めた。

ことば	久松小学校	16名
	湖山西小学校	13名
ひびき	面影小学校	19名
	湖山小学校	18名
	浜坂小学校	21名
	美保南小学校	19名
	宮ノ下小学校	17名
	浜村小学校	21名
	南中学校	20名
	湖東中学校	16名
	合計	180名

※年間延べ入級児童生徒数

④ 特別支援学級における適切な教育課程編成

- ・次年度に向けて適切な教育課程編成が行われるよう、3会場3日程で「鳥取市特別支援学級教育課程編成等の説明会」を開催した。(H30.12.3：国府町コミュニティセンター、H30.12.10：市教育センター、H30.12.18：湖山西小学校)

⑤ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用促進

- ・児童生徒への適切な指導支援の充実のために、校種間・学年間、関係者との引継ぎや情報共有の推進をめざし、特別支援教育に係る個別の教育支援計画等の取り扱いを明確に示し、通知を発出した。

(2) 成果と課題

- 「こども発達支援センター」の設置により、相談の一元化が図られ、教育と福祉が連携した個に応じた効果的な就学相談や教育相談を行うことができた。特に、早期支援コーディネーターを中心とした就学相談や移行支援は積極的に実施することができた。
- 中核市としての教職員研修が実施され、特別支援教育の視点を基盤とした校内支援体制の構築や教職員の専門性向上に関する理解啓発につながった。
- 特別支援教育の課題に対応するための説明会を実施することができた。
- 特別支援教育の視点を基盤にした学級経営や授業力向上について、個に応じた指導支援の充実と教職員の専門性向上のための学校支援の在り方に工夫が必要である。
- 児童生徒に対する適切な教育保障を目指して、学校・園・保護者に対する情報提供や就学相談・教育相談の継続的かつ計画的な実施、理解啓発が必要である。

平成31年度に向けて

- 新学習指導要領に基づく特別支援教育の充実や特別支援学級や通級による指導に関する専門性向上と理解啓発を行う。
- 「情報の伝達・活用」を重視し、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を効果的に活用できるよう、校内支援体制の充実と特別支援教育に関する基本的な知識・技能の向上に努める。
- こども発達支援センターの設置の効果を検証するとともに、特別支援教育係と発達支援係、教育と福祉の役割整理を行い、切れ目のない支援体制の強化・充実を図る。

2 教育相談事業

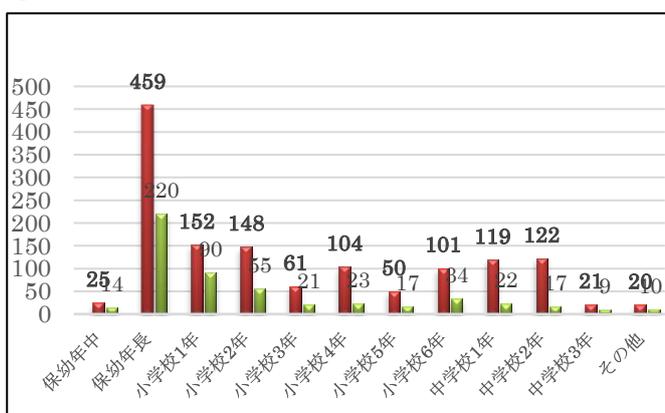
(1) 相談支援

①相談回数

	実相談者数	年間相談回数
平成 28 年度	318 人	1,001 回
平成 29 年度	395 人	925 回
平成 30 年度	494 人	1,576 回

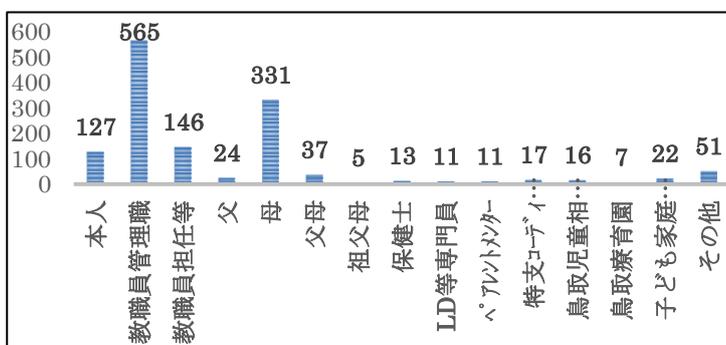
・3年間の経年変化を見ると、本年度は一昨年度の1.6倍、昨年度の1.8倍であった。各園・学校への説明や情報提供の機会が増えたことで実態に応じた相談活動につながっていると考えられる。

②年代別実相談者数（■）と年間相談回数（■）



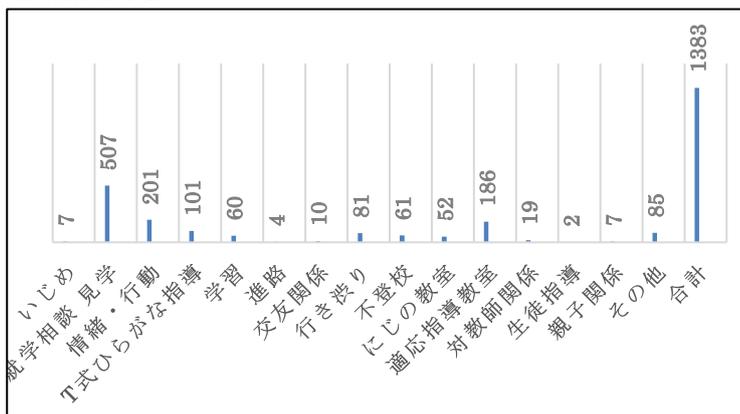
・実相談者の年代別相談回数を見ると、年長が全体の29%を占めている。就学相談を主訴とする小学校への円滑な移行や適切な学びの場について、電話相談や訪問相談(小学校の見学を含む)、来所相談などを行った。
 ・前期の新規相談者は全体の51%、後期は全体の18%となっている。学校等からの相談活動が継続されていることが伺える。

③相談者に基づく相談回数の内訳



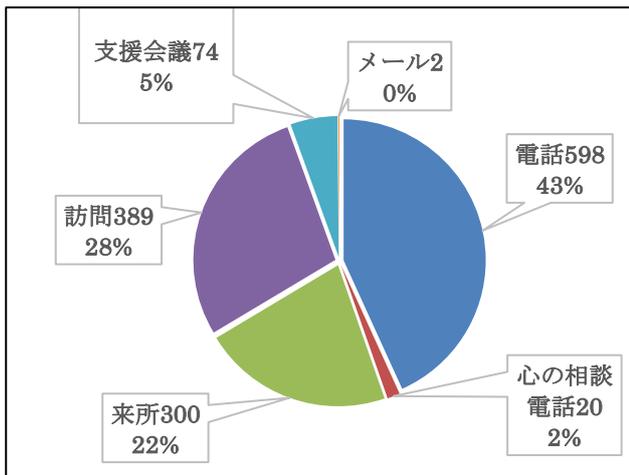
・相談者の内訳は学校等教職員が多く、就学に関することや不登校、適応指導教室に関する相談が多くなっている。
 ・次いで母からの相談が多く、就学や子育ての不安に関する相談や学校見学に関する内容が多くなっている。

④相談内容



・相談内容は、小学校の移行期や学びの場の検討に関する就学相談が多くなっている。
 ・適応指導教室に関しては、見学や体験に関する相談が多かった。
 ・「情緒・行動」に関する相談が全体の1割を占めており、不適応行動の解消を目指したものとなっている。

⑤相談形態



- ・電話相談は来所相談や訪問相談につながる段階が多い。その際に、保護者の了解を得ながら学校等との連携も積極的に行っている。
- ・訪問相談では、管理職、担当者と相談内容の情報共有や指導方針の確認や検討を行った。
- ・来所相談は保護者によるものが多く、心配な点や不安な点について傾聴し、保護者と話し合うことが多かった。
- ・適応指導教室「すなはま」に関しては、児童生徒本人や学校教職員の来所もあった。

- ・年度初めに「心の相談電話カード」を小学1年生全員に配布している。心の相談電話には1.5%の相談があった。
- ・支援会議は全体の5%であるが、関係機関や関係者との連携を密に行い、継続相談につながっている。中でも、福祉相談センター、いじめ・不登校総合対策センター（ハートフルスペース）との連携により、関係機関におけるネットワーク構築や支援方針等の情報共有が図られている。
- ・福祉部局との連携については、本年度5月1日のこども発達支援センターの設置により、発達支援係と共に、来所相談や訪問相談に対応することができた。

(2) 成果と課題

- 本年度も、早期支援コーディネーターを中心に、園や学校を訪問することで子ども・保護者のニーズに沿った支援に結びついた教育相談を進めることができた。
- 定期的な面談や電話等の継続した相談を大切にし、子どもや保護者の不安軽減や課題解決のための具体的なアドバイスを行うことができた。
- こども発達支援センターの「発達支援係」と「特別支援教育係」が連携し、相談できる体制が整い、相談件数が多くなった。
- 環境面も含めて、様々な問題や不安等相談内容が多様化・複雑化している。今後さらに、関係機関との連携を強化し、地域資源を活用したネットワーク構築が必要である。
- 本人・保護者への適切な情報提供や園・学校教職員への長期的な見通しや理解啓発が必要である。情報提供や理解啓発の方法や内容について、計画的・組織的に検討する必要がある。

平成31年度に向けて

- 福祉と教育のより一層の連携に努め、保護者との信頼関係を構築し、継続的かつ一貫した切れ目のない支援を行う相談体制の構築に努める。
- 本人・保護者にとってより適切な相談を行っていくために、本年度の相談内容や支援内容・方法の整理、事例の分析等を行っていく必要がある。
- 相談内容の多様化・複雑化に対応できる関係機関のネットワーク構築や職員の専門性向上に努める。

3 教育相談事業 ～早期からの教育相談事業～

(1) 目的

特別な支援を必要とする子ども及び保護者に対して、早期支援コーディネーターを配置し、早期から就学に関する情報提供や教育相談を行い、柔軟できめ細やかな就学移行支援やそのための体制整備を構築する。

【早期支援コーディネーターの役割】

- ① 就学期に関する教育相談と移行支援
- ② 本人・保護者への就学に関する情報提供
- ③ 教育・保育・福祉・保健・医療等の関係部局・機関や地域等との連絡・調整、情報収集

(2) 取組内容

① 相談内容と実績

1	就学に関する相談 (①②③)	回	実数	名
	①園訪問	回		
	②来所	回		
	③電話	回		
2	学校見学に関する相談・同行	回		
3	就学移行支援会議への出席	回	実数	名
4	就学後の支援会議（フォロー会議）	回	実数	名
5	5歳児発達相談会場での教育相談	回		
6	就学後の保護者相談（来所・電話）	回	実数	名

- ・ 就学時健康診断後
- ・ 保護者からの直接の就学相談や関係機関を通じて紹介された就学相談が増加している。
- ・ 早目に相談を受けることで、就学についての情報提供や学校見学引率等丁寧な就学相談ができ、スムーズな移行支援の事例が増えてきた。

・ 集計後分析し記入

・

② 「にじのきょうしつ」（就学前小集団活動）

【目的】 学校生活への不安軽減を図り安心して就学を迎えることができるよう、入学時に必要なスキルやルールを学ぶ機会をつくり、家庭と連携しながら入学に対する自信を育む。

- ・ A・B・Cの3グループに分け、1時間の活動を7月より開始した。
- ・ 年間9名の園児と保護者が通所した。A(5名)・B(2名)隔週火曜日・C(2名)不定期
- ・ 子どもへの指導と併せて保護者への教育相談・就学相談を月2回実施した。(1回目：グループ相談、2回目：個別相談) *状況に応じて変更

【「にじのきょうしつ」在籍人数】

【活動の領域】

グループ 月	A	B	C	グループ 月	A	B	C	グループ 月	A	B	C
4月				8月	1	0	0	12月	4	1	0
5月				9月	1	0	0	1月	5	1	1
6月				10月	2	0	0	2月	5	2	1
7月	1	0	0	11月	2	0	0	3月	5	2	1

- 人とのかかわり
- 感情表現・コントロール
- 約束の理解・行動化
- 身につけておきたい技能
- 聞く・話す・書く意欲
- ひらがな・数字への興味・関心

●Aグループ：14回実施 ●Bグループ：6回実施 ●Cグループ：5回実施

- ・学習の素地が育つような経験が少ないと感じる子どもが多い。ひらがなや数字への興味につながるような活動や身につけておきたい技能に関わる活動を複数のパターンで繰り返した。保護者の啓発にもつながり、家庭で一緒に練習し上達した子どもも数名いた。
- ・少人数グループのため、人とのかかわり方や規則的なことを理解し行動につなげる形を実践しやすく、活動の中で繰り返すことで成長する姿が見られた。
- ・保護者の不安を想定し、時期に応じたテーマで面談を行い、具体的な就学支援につながった。保護者の安心感が得られ、子どもの少しずつの成長に気づくことができる変容も見られた。

③ 関係機関との連携

- ・園訪問や就学相談を行う園支援と学校見学同行や移行支援会議・フォロー会議参加による学校支援を行い、移行支援の充実を図った。
- ・こども発達支援センター発達支援係、こども家庭相談センター、保健センター等と情報交換し、連携して就学支援を行った。関係機関主催の健診や研修会に参加・協力し連携を強めた。

(3) 成果と課題

- 園や保護者からの早い段階での相談が増え、円滑な就学につなぐ動きを段階的に進めることができた。学校見学に同行したり移行支援会議・フォロー会議に参加したりすることで、入学前と後をつなぐ情報や手立ての共有を図る等、園と学校の連携を支援できた。
- 「にじのきょうしつ」では、ケースに合わせて活動の場を設定するようにし、個別対応を大切にしたい。不安の大きい保護者も多く、時期に合わせた相談の場作りを工夫したい。
- こども発達支援センターやこども家庭相談センター・保健センターと連携したことで、スムーズに移行支援を行うことが増えた。
- 効果的な支援を行うために、健診等の福祉の取組から、発達支援・就学相談と、就学に向けた流れを具体化していく必要がある。
- 年間を見通した就学相談のあり方を、園や保護者の立場に立って検討する必要がある。
- 支援を必要とする子どもの実態に即した「にじのきょうしつ」活用の検討が必要である。

平成31年度に向けて

- 関係機関と連携して就学移行支援を行うため、流れや取組方針・内容を具体化する。
- 年間を見通しを持った就学相談の在り方を検討する。

4 適応指導教室「すなはま」「レインボー」の運営

(1) 入級状況

① 入級児童生徒数

計20名（小5名、中15名） ※3月末現在

		小学校						中学校			計
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
すなはま	男	1	1	0	0	1	0	2	2	1	8
	女	0	1	0	1	0	0	1	5	3	11
レインボー	男	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		1	2	0	1	1	0	3	7	5	20

- ・昨年度まで「すなはま」「レインボー」入級していた継続児童生徒数は、6名である。
- ・入級時は緊張で表情が硬かったが、来所回数を重ねていくうちにほとんどの入級児童生徒の笑顔が増えてきている。一方、不安等でほとんど来所することができなかった児童生徒は6名いる。
- ・冬休み明け以降、すなはま教室に関する相談件数や入級児童生徒や見学・体験者数が増加した。
- ・1月以降すなはま教室体験者数は7名。すなはま教室での体験を積み重ねていく中で、学校復帰につながった児童もいる。

② 月別入級児童生徒数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規入級児童生徒数	0	4	3	1	0	2	2	2	4	2	0	0	20

※2月以降、体験を継続した児童生徒については、新規入級児童生徒の数に含めていない。

③ 適応状況

段階	状 況	3月時点
1	ほとんど通級することができない	6
2	週1～2日程度の通級ができる	3
3	週3～5日程度の通級ができる	6
4	在籍校へ授業中や放課後に登校し、相談室等で過ごせる	3
5	ほぼ毎日、在籍校に登校できる	2
	合計（人数）	20

④ 卒業生進路状況 中学3年生5名（男子2名、女子3名）

- ・県立緑風高校（定時制） 1名
- ・県内通信制高等学校（クラーク高校） 2名
- ・県外通信制高等学校（ルネッサンス大阪校） 1名 ※
- ・進路未定 1名 ※

※卒業後の支援体制として、鳥取県ハートフルスペースへつながった事例は2名。

(2) 活動

「すなはま」教室 一週間の予定表						
		月	火	水	木	金
		読書・自主学习・プランニング(今日の学習予定を決める)				
午前	来室 (9:30~10:00)					
	10:00~10:50	学習①	体験活動	学習①		
	10:50~11:00	休けい		休けい		
	11:00~11:50	学習②		学習②		
	11:50	昼のつどい		昼のつどい	昼のつどい	そうじ
午後	12:00~12:30	昼食(お弁当)				
	12:30~13:00	昼休けい				
	13:10~14:00	集団活動	体験活動	集団活動	スポーツ(体育館)	* チャレンジ登校日を個別に設定 * 最終金曜日は閉室
	14:10~15:00	自由活動・今日のふりかえり				

① 学習

- ・学習に向かう体勢づくりや教科学習の習得をねらい、午前中に自主学习時間を設定している。
- ・ほとんどの児童生徒が、教育指導員と相談しながら自分で計画を立てて学習に向かうことができた。学習空白があり、教科学習に向かえない児童生徒には、点つなぎやワーク等、取り組みやすい教材を提示し、学習に対する姿勢の基礎づくりに努めた。
- ・顕微鏡を使って観察する等、体験的な学習を取り入れ、児童生徒の学習に対する興味付けを図った。
- ・中学生の学習支援を行うために学習支援員(数学・英語)を活用した。(10月~3月 各教科月2~3回ずつ)



② 集団活動

- ・生活経験を広げるとともに、集団での適応力や社会性を培うことをねらい、月・水曜日の午後に集団活動の時間を設定した。
- ・9月には、毎週水曜日の午後、鳥取県立聾学校手話普及コーディネーターと手話普及支援員を招き、手話体験活動を4回行った。
- ・制作活動や調理活動、すなはま農園作業等を計画的に行い、見通しを持って活動に取り組んだ。
- ・集団活動を通じて、入級児童生徒同士の関わりも増えてきた。



③ スポーツ

- ・体力向上と心身のリフレッシュをねらい、木曜日の午後にスポーツの時間を設定した。
- ・体力づくりプログラムを実施する時間を設定し、皆で連続ドリブルや8の字パスの記録を測ったり、バドミントン、卓球等を中心に運動を行ったりした。スポーツに親しむことで、明るい表情が見られるようになった。



④ 昼のつどい

- ・話をじっくりと聞く態度の育成、自分の生活を振り返るきっかけ作りをねらい、センターの全職員が交代で、テーマを決めて話をした。
- ・今年度は入級児童生徒も順番に自分の特技を披露したり、興味のあることを紹介したりする機会も設けた。入級児童生徒が生き生きと発表する姿が見られた。



⑤ 体験活動

- ・地域の施設や人材を有効活用し、地域の良さを感じたり、人との関わり方や社会性を培ったりすることをねらい、原則毎週火曜日に1日または半日を単位として設定した。
 - ・「勤労生産的活動」、「創造・文化的活動」、「自然体験活動」、「社会体験活動」の4つの領域に分類し、年間計画を立てて実施した。
 - ・市内小中学校の相談室登校等の児童生徒にも、外部に目を向け多様な経験をする機会として参加を呼びかけ、入級児童生徒との交流を図った。
- ※入級児童生徒以外からの参加:延べ人数36名(11校)

【平成30年度 体験活動一覧表】

期日	内容	場所	期日	内容	場所
5/8	動物公園と県立図書館	鳥取市東町・尚徳町	10/23	ポニー牧場乗馬体験	鳥取市越路大谷
5/15	調理実習と室内ゲーム	すなはま教室	10/30	交流活動(なないろディサービス)	鳥取市二階町
5/22	リファーレンいなばと青島散策	湖山方面	11/6	鳥取大学見学(携帯ラジオ組立)	鳥取大学
5/29	久松公園・県立博物館見学	鳥取市東町	11/13	アトリエ小学校と万葉歴史館見学	国府方面
6/5	刺し子手芸体験	すなはま教室	11/20	交流活動(福部保育園)	福部方面
6/12	ニュースポーツ	鳥取市教育センター体育館	11/27	調理実習(参観日)	すなはま教室
6/19	砂の美術館見学と梨の袋かけ体験	砂丘方面	12/4	餅つき	すなはま教室
6/26	調理実習と缶バッジ作り	すなはま教室	12/11	共同制作(折り紙)	すなはま教室
7/3	樗谿公園周辺散策	鳥取市上町	12/18	鳥取地方裁判所・わらべ館見学	鳥取市西町
7/10	ブルーベリー狩りと日本海新聞制作センター	鳥取市里仁・五反田町	1/8	さじアストロパーク	佐治方面
7/17	殿ダム見学・雨滝散策	国府方面	1/15	調理実習・消しゴムはんこ作り	すなはま教室
9/4	山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館	台風による臨時休校	1/22	書き初め・百人一首	すなはま教室
9/11	中国電力(出前講座)と茶道体験	すなはま教室	1/29	県警察本部見学・科学実験	財・すなはま教室
9/18	梨狩りと野外炊飯	砂丘方面	2/6	国際交流	すなはま教室
9/25	白兎グラウンドゴルフ体験 →室内ゲームとみそ汁作り	雨天中止	2/12	新日本海新聞社見学	鳥取市富安
		すなはま教室	2/18	調理実習・しおり作り	すなはま教室
10/2	鳥取県警察学校と鳥取空港	湖山方面	2/26	NHK・高砂屋見学	鳥取市寺町
10/16	そば打ち体験と宇倍神社見学	国府方面			計33回



樗谿公園周辺散策



ポニー牧場乗馬体験



鳥取大学見学(携帯ラジオ組立)

(3) 保護者・在籍校・関係機関との連携

① 教育相談・情報共有

- ・保護者との個別懇談 → 年3回(入級時、年度途中(10月)、年度末(2月))
- ・学校との教育相談 → 年2回(入級時、年度途中(8月))
- ・学校関係者、保護者の要望や必要に応じて、上記以外にも随時教育相談を実施した。
- ・主任教育相談員とも連携して、保護者や本人の教育相談に応じた。

- ・「すなはま教室だより」（学校用・保護者用）を配付。（月1回）
- ・「月例報告」（学校用・保護者用）を送付し、来所回数や教室での活動について連絡した。
- ・なかなか来所が難しい児童生徒の保護者へ定期的に電話連絡をし、近況を伺うとともに、保護者・本人とのつながりを保つように努めた。

② 支援会議

- ・学校教育課生徒指導係やS S Wと児童生徒の状況について情報共有し、連携を図った。
- ・在籍校等はもとより、医療機関、こども発達支援センター、鳥取県いじめ・不登校総合対策センター、福祉相談センター、希望館等の関係機関と連携し情報共有をするとともに、児童生徒にとってより良い支援策を検討した。

③ 保護者研修会 平成30年11月2日（金）午後6時～午後7時半

『子どものところに光を ～あなたがいて よかった～』

講師 久岡 賀代子先生

- ・子育ては人と比べることではなく、子どもたちが自分のチカラで進もうとする意志と自己肯定感を育むことであり、親は子どもとたくさん対話をし、子どもの努力を認め、励ますことが重要。
- ・ワークショップも取り入れた講演で、参加した保護者からは、「ほっこりとした時間を過ごすことができ嬉しかった。明日からの子育て実践に役立てたい。」という感想が寄せられた。



④ 参観日 平成30年11月27日（火）

- ・午前中は、すなはま農園でとれた野菜を使って、調理活動（ちらし寿司・大学いも）を楽しんだ。
- ・会食後は、すなはま教室での活動の様子についてのスライド鑑賞を行い、親子で和やかなひとときを過ごした。



⑤ 個人ファイルの作成・活用

- ・個人ファイルの記録
 - 1週間単位で目標を設定。日々の記録を綴り、児童生徒の成長を確認するとともに、支援の在り方について振り返りを行った。ファイルは週末に所内関係者で回覧し、情報共有を図った。



(4) 成果と課題

- 週1回のペース、来所する曜日を決める等、児童生徒一人一人の状況やニーズに合わせて対応することによって、児童生徒が安心して来所できるように支援した。
- 入級児童生徒の実態把握の一つとして、アセスを実施した。鳥根県立大学准教授山田洋平氏に結果分析のアドバイスをいただき、児童生徒理解に努めた。
- 体験活動のみならず、日々の集団活動等も計画的に行うことによって、児童生徒にとって見通しを持った活動を行うことができた。また体験を通して人との関わりも増え、児童生徒の表情にも明るさが増し、心身共にエネルギーが蓄えられた。
- 来所が難しく、なかなか外出できずに家にこもっている児童生徒への支援の在り方について、家庭・在籍学校・関係機関等とより密に連携して方策を考える必要がある。

平成31年度に向けて

- 家庭・在籍学校・関係機関等と連携を図り、児童生徒のアセスメントに基づく具体的な個に応じた支援に努める。（アセスメントシートの効果的な活用）

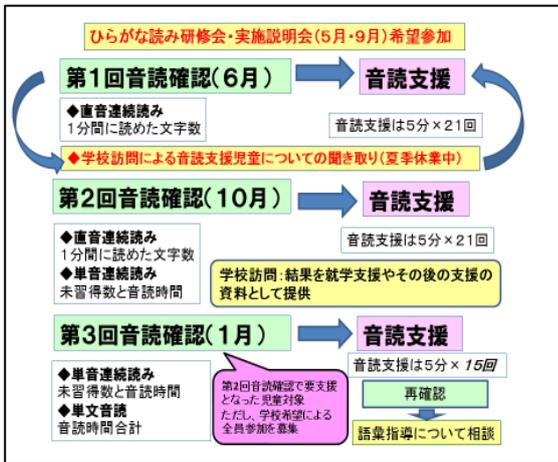
5 学校支援 ～ T式ひらがな音読支援事業～

(1) 目的

小学校1学年でひらがな読みの正確さを、2学年で流暢さを重点的に支援することにより、読みの困難さから生じる学力不振や不登校・学校不適応行動の未然防止を図る。

(2) 取組内容

① T式ひらがな音読支援（全1年児童対象）



	第1回確認	第2回確認	第3回確認	最終確認
実施人数	1,661	1,667	214	76
要支援数	218	215	77	42
要支援率(対象比)	13.1%	12.9%	36.0%	55.3%
要支援率(全体比)	13.1%	12.9%	4.6%	2.5%
	全体 1,667人			

② 語彙指導（1年次最終要支援の2年児童対象）

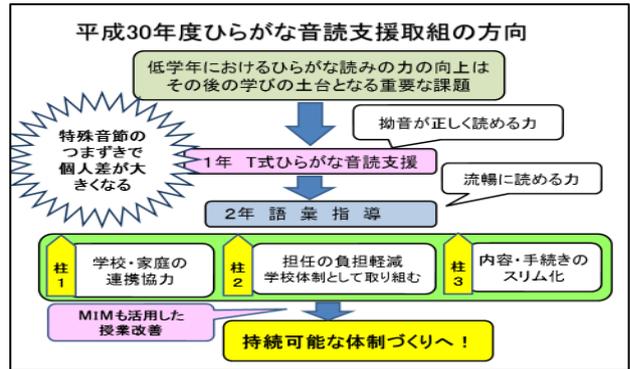
	確認(単音連続読み)	確認(単文音読 3文)
前半支援	語彙指導アプリ中心に	20分×20回を基準
中間確認(9月末)	未習得文字数 ≥ 4.4個 音読時間 ≥ 54.7秒	音読時間 ≥ 17.3秒
後半支援	語彙指導アプリ中心に	20分×20回を基準
最終確認(1月末)	未習得文字数 ≥ 4.4個 音読時間 ≥ 54.7秒	音読時間 ≥ 17.3秒
学校訪問	3年時の支援について検討	

平成28度から第3回確認は、第2回要支援となった児童のみとしてきたが、本年度は学校希望に基づき、16校において第3回確認を全員行った。第3回確認には、「単文検査」が含まれており、流暢な読みのためには、「1文字：1音」の音韻化は図れても、文の中で意味のあるまとまりを捉えるスキルが必要であることが周知されてきたものと思われる。タブレット支援も176家庭から協力があり、学校と家庭でともに同じ目標をもって支援していこうとする雰囲気や関係性もある程度定着してきたことが伺える。

年間3回の実施結果は左表のとおりである。第1回確認では過去5年で最も要支援率が高くなったが、単音の早期支援を行うことにより、段階を追って基準値に到達する児童が増えている。左表には含めていないが、第3回確認の全員参加希望16校を含む649人のうち、第2回確認ではクリアしていたにも関わらず第3回確認で基準値未達となったのは4名であった。この4名は最終支援の結果基準値に到達した。

1年次に最終要支援となった17名と学校参加希望20名の総計37名を対象に語彙指導を実施した。

語彙指導に関する平均支援時間は800分を基準としているが、担任アンケートによると、半期20分×20回の支援時間を確保することが難しい実態もあり、平均支援時間は684分という実態だった。しかしながら、C4th書庫で紹介したスラッシュシートや特殊音節プログラム、漢字



H30 2年語彙指導児童の音読確認平均値				
		単 音		単 文
1年次※ア (最終)24人	基準値	時間≧67秒	未習得≧9個	時間≧35秒
	平均	62.40	2.08	36.88
2年次※イ (中間)36人	基準値	時間≧54.7秒	未習得≧4.4個	時間≧17.3秒
	平均	53.10	0.36	25.98
2年次 (最終)35人	基準値	時間≧54.7秒	未習得≧4.4個	時間≧17.3秒
	平均	49.79	0.37	20.42
2年後期 標準学年平均		37.1		12.1

※ア 1年最終要支援は17人だったが、学校希望20人のうち、1年最終確認を実施した児童7人を入れて24人としている。
 ※イ 2年中間実施36人は、1年次最終要支援17人+学校希望19人。(学校希望は20人だったが、1人転出)
 ※ウ 2年最終実施35人は、中間確認で卒業の1人が除外。

カルタなども取り入れ、児童が意欲の継続ができるよう、工夫して指導の継続を行っている学校が増加している。

本年度語彙指導を実施し、基準値に到達した児童は19名(内、1年時最終要支援者5人)、未達は17名であった。例年より到達率が高いのは、学校希望参加児童(1年で基準値に到達したが、読みの流暢さに課題を感じたため)が多かったためと思われる。

左表を見ると、特に前期のうちに「単音1文字:1音」の音韻化の正確さが増している。また、単音・単文音読ともに、徐々に読むスピードが上がっている。

単文音読時間については、全体平均は基準値には未達であり、標準学年平均の1.6倍の時間を要している。3年次以降の指導支援も必要であることから、語彙指導対象児童の1年時からの音読確認結果と今後の支援についてまとめたものを各学校に送付した。個別の指導計画等に反映し次年度の担任への確実な引継ぎの推進について理解啓発が必須である。

(4) 成果と課題

- 上記結果からも、1年次・2年次ともに支援を行うことで、かなりの児童が読みの改善を図っていることが分かる。
- 1年次の第3回音読確認全員参加希望や2年次語彙指導の学校希望参加の増加、タブレット等の家庭連携支援の充実など、低学年でのひらがな支援の重要性が周知されてきた。

第1回(直音)確認結果 年次比較					
	H26	H27	H28	H29	H30
実施総数	1,692	1,588	1,573	1,529	1,661
要支援者	147	146	150	168	218
要支援率	8.7%	9.2%	9.5%	11.0%	13.1%

- 右表は、1年6月時点での直音確認の結果である。年々第1回確認での要支援率が右肩上がりに増加している。54文字基準のところ、20文字以下の児童が50名(昨年度23名)と倍増している。入学して文字を学ぶにあたり、それまでの“ことばの育ち”が重要になるのではないかと考え、平成31年1月に市内年長児保護者対象の「ことばに親しむ環境づくりに関するアンケート」を実施した。今後結果分析を行い、子どもにとってより良い環境づくりを検討していきたい。

- C4th 書庫に“学級みんなで楽しめる「ことばあそび」”を追加した。楽しくことば遊びをし、流暢に読むための音韻意識と語彙力を育てることをねらっており、活用を促進を行うことが必要である。

NO. 2 ことばあそび「OOなものなんですか？」

1 わらい 語彙を増やす

2 準備等 車座になって、座る。

3 遊び方

① T:「なんですか、なんだ。」「まああるもの、なんだ？」
 ※みんなが自分のひざを軽くたたいて拍子とりながら、
 ② C1:「まああるもの:タイヤ」
 ③ 全員:「なんですか、なんだ。」「まああるものなんですか？」
 ④ C2:「まああるもの:コップ」
 ⑤ 全員:「なんですか、なんだ。」「まああるものなんですか？」
 ⑥ C3:「まああるもの:地球」・・・

4 遊び方の留意点

① こどもの声がかき消されないように、拍子はひざを叩いてとるとよい。
 ② ある方向から見ると「まる」に見えるものもOK。「えー？」などの声がかけて、答えだ児童の視点をみんなで共有する。
 ③ 児童の実態に応じて、細かいルールはその場で確認する。

5 ことばの例(反意語・類似語も使えます)

・高いもの ・長いもの ・とがったもの ・大きいもの
 ・高いもの ・高いもの ・高いもの ・赤いもの
 ・高いもの ・おもしろいもの ・こわいもの ・楽しいこと
 ・高いもの ・あまいもの ・遊具の道具

No. 6 OOに入ることばさがし

1 わらい 拍を意識しながら、音を思い浮かべる活動を通して、語彙を豊かにする。

2 準備等 黒板とチョーク、プリント

3 遊び方

① T:Oの中に文字を入れると、どんなことばができるかな?
 ② たとえば:OOAOO

③ C1:かんづめ C2:ひんづめ C3:けんづめ C4:ほんづめ
 C5:めんづめ C6:てんづめ C7:きんづめ C8:しんづめ
 C9:てんづめ C10:ほんづめ C11:えんづめ
 C12:たんづめ C13:ほんづめ C14:あんでん

④ すこいなあ、みんなの知恵を編めるとすくすく大きくなるね。

4 遊び方の留意点

① 友達と一緒に遊べたら、へアで発表もOK。
 ② 学級みんなで得意みつかると、記録を作っても楽しい。

5 ことばの例

① みOO... みらい・みながみ・みこし・みみず・みえる・みかん
 みきき・みけん・みのり・みまい・みよう・みがく...

② OO... いち・けち・もち・さち・うち・もち・もち・もち・もち
 みら・ゆら・おち・うち・もち・もち・もち...

③ OO... といけ・もけい・おけら・おけら(クラスの子の名前)
 こける・おけい・おけい・おけい・おけい・おけい...

④ OO... ロケット・パケット・ラケット・はいった・ポケット
 トラック・チケット・ほしたた・わたった・じりつと...

「ことばあそび」の例

平成31年度に向けて

- 読む力のもととなる言葉の育ちに関する環境づくりや小学校中学年以降の読み書きの困難さに対する指導支援について検討する。

6 教職員研修

(1) ねらい

鳥取市のすべての子どもが幸せになるために、特別支援教育の視点を基盤として教職員の資質・能力の向上をめざし、学校経営の工夫・改善を図りながら、鳥取市の教育課題である学校不適応解消（未然防止）・学力向上に向けた研修とする。

(2) 実績

研修名	開催日	内 容	参加者
初任者研修	4/3	講義①「鳥取市教職員としての責務と使命」 講義②「児童生徒との信頼関係を築くために」	57名
	5/10～ 7/13	初任者学校訪問 (授業参観・管理職との協議・初任者との面談)	50名
	7/30	子どもの多様性に応じる教育的支援の在り方や学級集団づくり	49名
中堅教諭等 資質向上研 修	4/24	学校不適応解消（未然防止）に向けた児童生徒理解 (教務主任研修とのコラボ研修)	72名
	5/17	特別な支援を必要とする児童生徒の理解とその対応 基礎的・応用的社会的能力を育てるカリキュラム (特別支援教育ステップアップ研修①とのコラボ研修)	74名
	7/31	意図的・計画的な生徒指導の必要性 進んで友達とかかわる、思いやりのある児童生徒の育成 (16年目研修①とのコラボ研修)	68名
	8/20	すべての先生がすべての子どもの特性を理解し、わかる授業の実践 (特別支援教育ステップアップ研修③とのコラボ研修)	94名
	10/16	学習の振り返りに重点をおいた、児童生徒主体の授業づくり 各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメント (キャリアデザイン研修①とのコラボ研修)	67名
	1/22	メンターとして組織力を高めるための協働的教員集団づくり (16年目研修②とのコラボ研修)	64名
校長研修	5/25	学校不適応解消（未然防止）のためのマネジメントの在り方 ポジティブな行動に着目し、具体的に支援するSW-PBS	49名
	8/28	すべての子どもが自分のよさを発揮できる学校づくり	57名
副校長・ 教頭研修	5/15	学校不適応解消（未然防止）のための学校経営の在り方	62名
	8/22	チーム学校としての副校長・教頭の在り方	61名
学力向上 研修	5/24	本年度の学力向上の取組について 児童生徒の思考力の育成と思考ツールの活用	56名
	10/25	本年度の学力向上の取組について 授業研究会でやる気を引き出す秘策	57名
情報化推進 リーダー研 修	7/6	児童生徒の学び合いに生かし、学びの質を高めるICT活用 主体的・対話的な学習の充実に向けたタブレットPCの活用	56名

特別支援教育ステップアップ研修	6/28	鳥取市における特別支援教育について 自立活動の意義と児童生徒の実態に応じた指導・支援の在り方	67名
	12/4	子どもの意欲を高める評価の在り方 やる気を高める校内支援体制の在り方	58名
特別支援教育支援員研修	5/29	通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒への支援	55名
	7/13	特別な支援を必要とする児童生徒に対する担任と連携した支援	53名
講師研修	11/26 ～12/6	4小学校、2中学校において先輩教諭の授業参観及び研究協議 講話「教師としての姿勢」(校長) 講義「授業づくりと学級経営(保健指導と保健室経営)」(授業者)	74名
道徳教育推進教師研修	5/25	「特別の教科 道徳」の改訂内容や指導方法、評価の在り方 授業改善のポイントを活かした授業づくりの演習	58名
人権教育主任研修	5/11	鳥取県の人権教育の推進について 鳥取市の人権教育の推進について	58名
	10/30	スマホ時代の子どもたちをめぐる、いじめ問題の現状と対応策	58名
学校司書・司書教諭研修	6/22 6/29	図書館と教室をつなぐ ～新学習指導要領の実践を意識して～ 図書館教育全体計画の作成について 中央図書館の学校図書館支援について	60名
	9/28	魅力ある図書館とは	27名
LD等専門員・通級指導教室担当者研修	7/11	算数障がいのある子どもへの見立て・アセスメント それぞれの子どもの特性に合った指導・支援の在り方	16名
	11/18	学習指導要領の改訂及び自立活動の指導について	16名
	1/10	個別の指導計画の作成と活用について	16名
不登校対策研修	5/10	鳥取市の学校不登校対策について 教育相談コーディネーター(CO教員)とは	57名
	9/21	不登校児童生徒の実態に応じた支援の在り方と未然防止策 (生徒指導専任相談員研修②とのコラボ研修)	56名
生徒指導専任相談員研修	4/20	生徒指導専任相談員に求められる役割 鳥取市教育センターの適応指導教室について	9名
外国語活動支援員研修	6/6	鳥取市外国語活動支援員に期待すること 外国語活動支援員の役割	16名
外国語活動中核教員研修	5/22	これからの外国語活動・外国語の指導にもとめられるもの	45名
教職員人権教育研修	4/27	鳥取市の人権教育の推進について これからの人権教育の実践について	46名
特別支援教育ワークショップ	7/3	アセスによる実態把握の方法と解釈、支援の方策	24名
	11/6	「愛着の器」モデルに基づく愛着修復プログラム 愛着の視点でのこどもの見取りと支援の在り方	22名
ことばの発達に関する講演会	10/27	ことばの力を育むために大切なポイント 子どもの実態把握、発達や実態に応じた指導・支援の在り方	95名

<教師力サポート研修> (計 11 校実施)

開催日	学校名	参加者	開催日	学校名	参加者
6/20	美和小学校	15 名	8/21	湖山小学校	23 名
6/20	気高中学校	20 名	9/12	神戸小学校	30 名
6/27	神戸小学校	10 名	10/31	逢坂小学校	10 名
6/27	西郷小学校	9 名	10/31	西郷小学校	9 名
6/27	国府東小学校	12 名	11/1	岩倉小学校	25 名
7/4	逢坂小学校	10 名	11/7	国府東小学校	12 名
7/4	国府東小学校	12 名	12/12	湖山小学校	30 名
7/11	河原第一小学校	11 名	12/19	倉田小学校	15 名
7/11	明治小学校	12 名			

<次代を担うとっとり教職員派遣>

県外派遣

	研修テーマ	時期及び派遣先	研修生
1	学力向上	6/18～6/22 熊本県熊本市立大江小学校	美保小学校 野村 歩夢 教諭
2	特色ある学校づくり	7/9～7/13 品川区教育委員会事務局指導課、品川区立品川学園、品川区立荏原平塚学園	湖南学園 浅井 美和 教諭
3	学校不適應の解消（未然防止）	8/3～8/7 広島大学 教育実践総合センター	遷喬小学校 高橋 佑己 教諭
4	学校不適應の解消（未然防止）	9/26～9/28 京都府久御山町立久御山中学校	湖東中学校 竹村 康彦 教諭
5	自主テーマ	6/25～6/29 宮城県仙台市立富沢小学校	散岐小学校 大倉 さつき 教諭
6	自主テーマ	11/5～11/9 東京都足立区立江北桜中学校、足立区立新田学園	河原中学校 加藤 順子 教諭

(3) 成果と課題

- 中堅教諭等資質向上研修におけるコラボ研修を行なったことで、協働して校内で研修内容を活かすためのカリキュラム・マネジメントをリードしたり、メンターとして若手を育てる意識を高めることにつながった。
- 「学力向上」、「学校不適應解消（未然防止）」の課題に対して、特別支援教育を基盤にして研修を行った。「研修で学校が変わる」ために、研修の在り方の工夫や校内OJTにつながる取組のアンケートを行った。また、各研修のまとめを作成しHP等をとおして学校への還元を図った。
- 校内でのマネジメントサイクルが実践されているか見取り、研修と学校の課題解決に向けた取組をつなぐことができるよう研修内容を企画していく。

平成31年度に向けて

- 鳥取市の教育課題に焦点化した教職員研修を主体的に企画・実施し、各校の課題解決に向けた戦略の立案・実施に役立てる。
- 学力向上・学校不適應解消（未然防止）に向けて共通の方向性のもと、一貫性のある実践によって様々な課題に対応できる人材を育成するための研修を充実させる。
- コラボ研修を中心にして、特別支援教育の視点を複数のキャリアステージを貫く研修課題に設定し、「研修で学校が変わる」ことをめざし、学校組織マネジメントの推進と校内OJTの活性化を図る。

7 学校支援人材活用 ～小学校外国語活動支援員～

(1) ねらい・内容

- ・小学校外国語活動では、学級担任による指導を基本とするが、児童を外国語や外国の文化に慣れ親しませたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけさせたりするために、外国語に堪能な地域人材やネイティブスピーカーと触れ合うことが効果的である。
- ・小学校外国語活動のねらいであるコミュニケーション能力の素地の育成を図るために、外国語活動の授業を補助する人材を活用し、外国語活動の円滑な実施及び充実を図る。
- ・各学校が自主的に地域人材に依頼したり、鳥取市教育センターの人材バンクから紹介を受けたりして確保した支援員により、3・4年生の各学級につき年間8時間、5・6年生の各学級につき年間12時間の外国語活動授業において担任の授業を補助する。

(2) 配置実績

- ・市の事業39校、県の事業28校で、27校が両事業を併用(2名配置は11校)
- ・配置した支援員は27名で、14名が兼務(最も多い支援員で6校)
- ・外国人支援員は11名、日本人支援員は16名

(3) 成果と課題

- 支援員は、豊富な指導経験を生かして楽しく授業支援を行い、外国語や外国文化に対する児童の興味・関心を引き出している。
- 授業構成や活動の工夫など、担任にとって支援員の指導が参考となっている。
- 市教育センターで実施した外国語活動支援員研修(6月6日)を16名の支援員が受講し、講義・演習や情報交換をとおして、小学校外国語及び外国語活動先行実施の趣旨や担任とのチームティーチングの在り方について理解を深めることができた。
- 鳥取市小学校教育研究会外国語活動部会の授業研究会に、のべ19名の支援員が参加し、授業参観や研究協議会への参加をとおして、新教材の活用方法や支援の在り方について理解を深めることができた。
- 支援員への連絡や授業内容の打ち合わせ、振り返りについて十分な時間確保が難しかった。
- 本年度、鳥取市は新学習指導要領を先行実施し、3・4年生で外国語活動が年間35時間行われ、5・6年生で年間70時間行った。授業時間数の増加に伴い、支援員の活用時間は昨年度の約1.4倍に増加した。各校における外国語活動の充実を図るため、授業支援が可能な地域人材をさらに確保することや支援員全体の指導力を高めることが求められる。

平成31年度に向けて

- 新学習指導要領の先行実施2年目にあたり、支援員配置のニーズがさらに高まることが予想される。外国語及び外国語活動の授業支援が可能な地域人材の確保に努める。
- 外国語活動支援員を対象とした研修に外部講師を招聘し、小学校外国語活動の内容と外国語活動支援員の役割について理解を深め、担任とのチームティーチングの充実を図る。

8 きなんせ！English World

(1) ねらい

外国語指導助手（ALT）や地域の外国人との活動を通して、児童がたっぷりと英語にふれ、視野を広げ、英語で積極的にコミュニケーションしようとする意欲を高めるきっかけとする。

(2) 実績

（きなんせ！English World）土曜日 10:00～11:45 実施

回	期 日	活動内容	スタッフ	参加者
1	6月2日	夏をテーマにした活動【対象：5・6年生】 （モデルザット、タイフーン、アルファベット・スープ）	ALT12名 支援員3名	29名
2	10月13日	ハロウィーンにちなんだ活動【対象：5・6年生】 （ウィザード・ドゥエル、モンスター・マッシュ、スケアーエイズ）	ALT13名 支援員3名	25名
3	12月15日	クリスマスにちなんだ活動【対象：4・5・6年生】 （タイフーン、ピクショナリー、スノーマン・ドレスアップ）	ALT13名 支援員5名	41名
4	2月23日	冬をテーマにした活動【対象：4・5・6年生】 （ジャイアントメモリー、タイフーン、アルファベット大会）	ALT12名 支援員5名	43名

（きなんせ！English World キャラバン）水曜日実施

回	日 時	学校	スタッフ	参加者
1	5月30日	9:00～15:00 ① 東郷小学校	ALT 6名、支援員 1名	30名
		9:00～15:00 ② 福部未来学園	ALT 6名、支援員 1名	201名
2	6月13日	9:00～15:00 ③ 中ノ郷小学校	ALT 6名	156名
		9:00～13:00 ④ 神戸小学校 13:15～15:00 ⑤ 江山中学校	ALT 6名、支援員 1名	小学校 20名 中3年 26名
3	6月27日	9:00～15:00 ⑥ 修立小学校	ALT 7名、支援員 1名	3～6年 173名
		9:00～15:00 ⑦ 米里小学校	ALT 5名、支援員 1名	167名
4	7月4日	9:00～15:00 ⑧ 明德小学校	ALT 6名、支援員 2名	3～6年 107名
		9:00～15:00 ⑨ 湖南学園	ALT 6名、支援員 1名	98名
5	9月12日	9:00～12:50 ⑩ 醇風小学校	ALT 6名	271名
		13:10～15:00 ⑪ 富桑小学校		3～6年 93名
		9:00～15:00 ⑫ 遷喬小学校	ALT 6名、支援員 1名	104名
6	9月19日	9:00～15:00 ⑬ 面影小学校	ALT13名、支援員 1名	284名
7	10月17日	9:00～13:05 ⑭ 国府東小学校	ALT 6名、支援員 1名	3～6年 91名
		13:30～15:00 ⑮ 国府中学校		中1年 64名
		9:00～15:00 ⑯ 未恒小学校	ALT 6名	297名
8	11月7日	9:00～12:50 ⑰ 青谷小学校	ALT 7名	194名
		13:10～15:00 ⑱ 青谷中学校		中1年 32名
		9:00～15:00 ⑲ 鹿野学園	ALT 6名、支援員 1名	158名
9	11月21日	9:00～15:00 ⑳ 美保南小学校	ALT13名、支援員 1名	368名

10	12月5日	9:00～15:00	㉑ 美和小学校	ALT 6名	132名
		9:00～15:00	㉒ 倉田小学校	ALT 7名	114名

(3) 主なアクティビティ

小・低学年	○英語を聞いて体を動かしながら、外国人とのふれあいを楽しむ活動 (例)・フルーツ(動物、食べ物、色等) バスケットゲーム ・「好き・きれい」ゲーム(食べ物、動物等) ・数字を使ったアクティビティ
小・中学年	○英語を聞いたり単語を伝えたりしながら、英語にたっぷり触れる活動 (例)・ジェスチャーゲーム(動物、スポーツ、アルファベット等) ・伝言ゲーム(フルーツ、スポーツ、色等)
小・高学年	○外国語活動で慣れ親しんだ表現を用いて外国人とコミュニケーションする活動 (例)・コミュニケーション活動(自己紹介、趣味、行ってみたい国、将来の夢等) ・インタビュー活動(動物、特技、スポーツ、食べ物等)
中学校	○外国語授業で身に付けた表現を活用して外国人とやりとりする活動 (例)・コミュニケーション活動(鳥取について、自分の夢、文化の違い等)

(4) 成果と課題

○小学生が自主的に参加する English World を4回実施した。4年生の参加可能回数を昨年度より1回増やした。どちらの回も10数名参加し関心の高さを示している。事後アンケートでは、どの学年もほぼ全員が「楽しかった、また参加したい」と回答しており、満足度は高い。また、複数回参加した児童は、自ら進んで英語を活用しようと積極的に活動し、中学校での英語学習や「鳥取市グローバル人材育成事業(中学生シンガポール派遣研修)」の参加への意欲に発展的につながっている児童生徒もいる。



○ALT等が学校に出かけるキャラバンを10回実施し、計22校を訪問して約3,200名の児童生徒が外国人と英語でやりとりできる喜びを体験した。各学年のカリキュラムに即しながら、ALT等とのコミュニケーションの場面を多く設定したり、活動内容レベルを徐々に上げたりするなどの工夫により、「英語で話せて楽しかった」「英語学習をもっとしたい」などの児童生徒の感想が寄せられ、意欲向上に寄与している。



○キャラバンでは、開催する校区内小中学校へ情報提供を行い、校区の英語、外国語担当者や外国語活動支援員が参観に訪れた学校が複数校あった。小中連携した指導について意識を高める一助となっている。

○ALTを中心に主体的に企画・運営することでスタッフとしての一体感と達成感が高まっている。スタッフ同士の情報交換や指導力向上のよい機会にもなっている。

□英語でのやりとりや文字を意識した活動を増やす等の工夫をし、いっそうの充実を図りたい。

平成31年度に向けて

- キャラバンでは、複数年実施校の自立を促す支援により新規実施校を増やすとともに、中学校区内小学校の合同開催や小・中連携も意識しながら学年段階に応じた活動を工夫する。
- 「きなんせ! English World」では、活動内容を充実させながらレベルアップを図る。

平成30年度 所報第12号

発行日 平成31年3月31日
発行所 鳥取市教育センター
〒680-0053 鳥取市寺町150番地
TEL (0857) 36-6060
FAX (0857) 26-3878
E-mail kyo-center@city.tottori.lg.jp
URL <http://www.city.tottori.lg.jp/>

